

三木茂

みき しげる

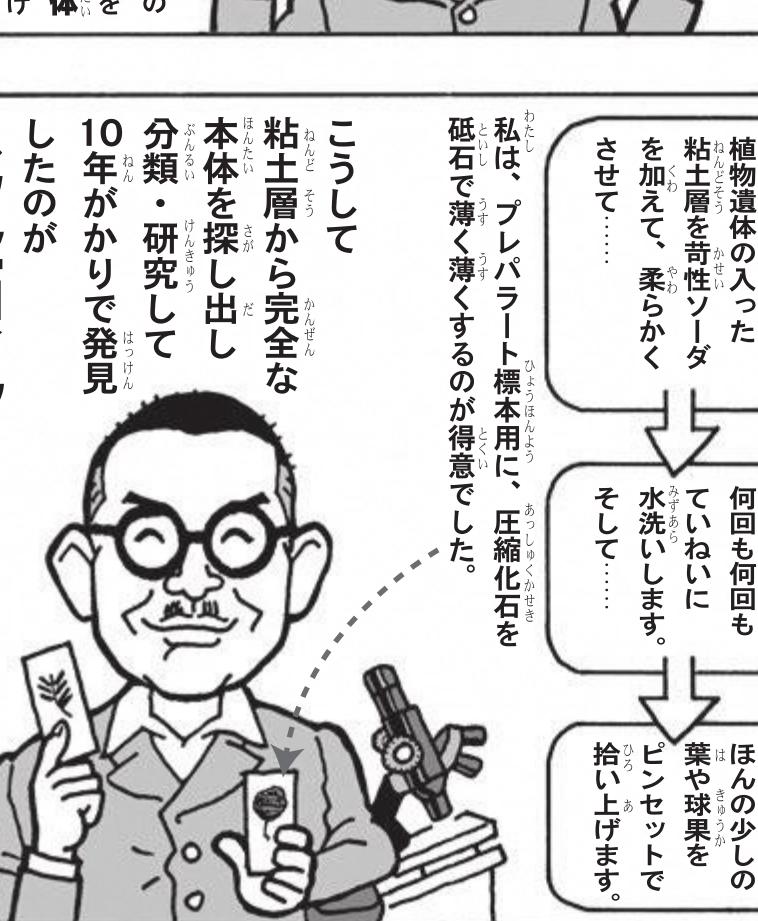
メタセコイアを命名 古生物学と植物学の発展につくし、 メタセコイアを命名



日本各地から、さらにアジアへと駆け巡り調査・研究した三木博士は、植物学だけでなく地質学の発展にも偉大な貢献をしました。

三木茂博士ゆかりの場所

メタセコイアなのです。



平成5年、三木博士の業績を記念し、山大寺池東側にメタセコイア2700本が植えられ、記念碑のほか恐竜の像も設置されています。

今から百十余年前に三木町の鹿庭で生まれた三木茂博士は、興味を持つた植物について生涯勉強を続け、世界からも認められる植物学者になりました。

生きていた化石リメタセコイアの発見と命名で有名になりましたが、「科学は低い所がある」と、全体の進歩がばばまれる。基礎資料づくりとの信念で、その後も多くの植物遺体(化石)を集めて調べ続けた彼の研究は、植物学だけでなく古生物学や地質学まで幅広く貢献しています。

魚ばっこの茂やん

二木茂は、現在の新川と葛野川が合流する角地にある農家に生まれました。茂少年はひとつのこととに熱中するくせがあり、学校から帰るといつも裏の小川で魚をとつて遊んでいたので「魚ばっこ」とあだ名され、あまり他の子どもたちからからは相手にされませんでした。

おら、進学したい！

二木茂は、現在の二木町鹿庭の山、愛媛の石槌山にも登りました。卒業を前にした時、好きな学問をやめることなく、歩いて四国をまわり、高知や徳島の剣山、愛媛の石槌山にも登りました。

三年生の夏休みには歩いて四国をまわり、苦しみながら周辺のほとんどの山に登りました。卒業を前にした時、好きな学問をやめることなく、歩いて四国をまわり、高知や徳島の剣山、愛媛の石槌山にも登りました。卒業を前にした時、好きな学問をやめることなく、歩いて四国をまわり、高知や徳島の剣山、愛媛の石槌山にも登りました。

「なんやと、ぜいたくな事を考えるな！」と父は反対しましたが、やがて親しい友人にも相談して考えた上で「お前がいいかげんな気持ちでないこともわかつた。学問を力いつぱいやつてみ。」と言つてくれたので、盛岡高等農林学校へと進学できました。

おら、進学したい！

二木茂は、現在の二木町鹿庭の山、愛媛の石槌山にも登りました。卒業を前にした時、好きな学問をやめることなく、歩いて四国をまわり、高知や徳島の剣山、愛媛の石槌山にも登りました。

三年生の夏休みには歩いて四国をまわり、高知や徳島の剣山、愛媛の石槌山にも登りました。卒業を前にした時、好きな学問をやめることなく、歩いて四国をまわり、高知や徳島の剣山、愛媛の石槌山にも登りました。

「なんやと、ぜいたくな事を考えるな！」と父は反対しましたが、やがて親しい友人にも相談して考えた上で「お前がいいかげんな気持ちでないこともわかつた。学問を力いつぱいやつてみ。」と言つてくれたので、盛岡高等農林学校へと進学できました。

おら、進学したい！

二木茂は、現在の二木町鹿庭の山、愛媛の石槌山にも登りました。卒業を前にした時、好きな学問をやめることなく、歩いて四国をまわり、高知や徳島の剣山、愛媛の石槌山にも登りました。

三年生の夏休みには歩いて四国をまわり、高知や徳島の剣山、愛媛の石槌山にも登りました。卒業を前にした時、好きな学問をやめることなく、歩いて四国をまわり、高知や徳島の剣山、愛媛の石槌山にも登りました。

「なんやと、ぜいたくな事を考えるな！」と父は反対しましたが、やがて親しい友人にも相談して考えた上で「お前がいいかげんな気持ちでないこともわかつた。学問を力いつぱいやつてみ。」と言つてくれたので、盛岡高等農林学校へと進学できました。

研究分野を見つける。

二木茂は、植物担当の松原安もち、図鑑を見ながら周辺のほとんどの山に登りました。卒業を前にした時、好きな学問をやめることなく、歩いて四国をまわり、高知や徳島の剣山、愛媛の石槌山にも登りました。

三年生の夏休みには歩いて四国をまわり、高知や徳島の剣山、愛媛の石槌山にも登りました。卒業を前にした時、好きな学問をやめることなく、歩いて四国をまわり、高知や徳島の剣山、愛媛の石槌山にも登りました。

「なんやと、ぜいたくな事を考えるな！」と父は反対しましたが、やがて親しい友人にも相談して考えた上で「お前がいいかげんな気持ちでないこともわかつた。学問を力いつぱいやつてみ。」と言つてくれたので、盛岡高等農林学校へと進学できました。

そうだ！これだ。

選んだ道はけわしく、二木は迷いながらもその恩に研究を重ねることでむくいようと、石川県立農林学校の教諭になりますが、さらに研究を深めるために京都大学に入学しました。ここで

師となる郡場寛教授の指導のもと、学者の間で取り残されていた水湿地植物の研究に励んだので、そこ自分に与えられた使命であると強く思いました。

標本を作るのはもつと根気がいる大変な仕事で、盆止月もなく年中研究に没頭しました。昭和十四年に和歌山と岐阜の粘土層から見つけた球果と小枝からセコイアと異なる新種を発見しました。メタセコイアと名づけて、学会誌「植物学輯報」に発表し、世界の学界にも送りましたが、戦争が始まりほとんどが届きませんでした。

